

新規事業採択時評価結果（平成24年度 新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	一般国道1号 島田金谷バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県島田市野田 至：静岡県掛川市佐夜鹿	延長	10.4km		

**事業概要**  
一般国道1号島田金谷バイパスは、静岡県島田市野田から掛川市佐夜鹿へ至る主要幹線道路である。当該区間は、暫定2車線で供用されており、本事業は島田金谷バイパスを4車線化し、交通容量の拡大を図る延長約10.4kmの事業である。

**事業の目的、必要性**  
当該区間の整備により、国道1号島田金谷バイパス及び大井川を渡河する並行路線の渋滞緩和、第2次医療施設への搬送時間の短縮や30分圏域の拡大、高速ICの30分圏域の拡大により利便性の向上等が図られる。

全体事業費：約240億円      計画交通量：約58,800台/日



**関係する地方公共団体等の意見**  
【静岡県知事】・予算化に同意  
・新規事業化と事業推進を強く希望します。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
・新規事業化については妥当である。

**事業採択の前提条件**  
■費用対便益：便益が費用を上回っている。  
■手続きの完了：都市計画決定手続き完了（昭和46年3月）

事業評価結果

費用対便益	B/C	5.6	総費用：228億円 （事業費：182億円 維持管理費：46億円）	総便益：1,289億円 （走行時間短縮便益：1,200億円 走行経費減少便益：56億円 交通事故減少便益：34億円）	基準年：平成23年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=5.1 (交通量-10%)	B/C=6.2 (交通量+10%)	
		事業費変動	B/C=5.2 (事業費+10%)	B/C=6.1 (事業費-10%)	
	事業期間変動	B/C=5.5 (事業期間+20%)	B/C=5.9 (事業期間-20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	・島田金谷バイパスの交通容量拡大により、国道1号の渋滞緩和が見込まれる。 （約6割削減） 【損失時間の改善】 国道1号：現況 約110万人時間/年 ⇒ 約40万人時間/年 【1kmあたり損失時間】 約17万人時間/年km（現況） [静岡県平均：約4.0万人時間/年km（約4.2倍）]	
		事故対策	-		
	社会全体への影響	歩行空間	-		
		住民生活	◎	・島田金谷バイパス4車線化により、第2次医療施設への搬送時間が短縮するとともに30分圏域が拡大。 [島田市役所金谷支所～島田市民病院：16分⇒9分（7分短縮） 島田市民病院30分圏域人口：約23万人⇒約29万人（約6万人増）]	
		地域経済	○	・島田金谷バイパスの旅行速度の向上により、新東名島田金谷ICの30分圏域が拡大し、島田市及び周辺市に立地する企業の高速度道路利便性が大幅に向上。 [30分圏カバー事業所：約65百事業所⇒約114百事業所（約49百事業所増）]	
		災害	-		
	環境	-			
	地域社会	○	・島田市と掛川市の所要時間短縮や旅行速度の向上により、地域間連携が強化。		
事業実施環境		○	・昭和46年3月31日 都市計画決定済み		

対応方針

費用対便益が5.6と便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、当該区間の渋滞緩和、第2次医療施設への搬送時間の短縮等、地域経済への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。  
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。